

慶応三年六月十七日より慶応三年六月廿一日まで

P8310692right

三方遣す、辞して帰り去る、竹中(佐次)来り、伊内(常)英公使同船出帆の義□□申聞る、尤面せず

して何れ加藤へ可申立旨、挨拶いたし遣す

十八日子 晴夕雲入夜雷雨

宅調、本多(弘)、宇野(郁)、星野(幸)、酒井(幸)、菰田(雄)、山本(鎗)、桜井(□)、柴田(耕)、大竹(欽)、西村(鉄)、増井(平)

前島(来)来り面す、岡本(せき)暑中見舞明日土用入也)として茄子唐茄一臺持来一杯を勧む不面、当夏御借米(外国奉行の□の割御今渡の分式百四拾兩札差より差越御米は当月中に可有し旨

入米五拾俵の積り也、(旧小侍)定次来る、花豆少許持来、扇に巾等遣す

十九日丑 晴雲

出 殿、坂地同役へ過日の返書(井上信濃よりの懸合戻一通□書)、(京地)星野豊後へ一書、(出立遅延の旨)内状御右筆(小太郎へ)さし込

P8310692left

差立を頼む、内山(大鮑)二、桑野(鯉節折)暑中見舞せし、且同氏へは鳥の子をも遣旨、

墨陀須崎より暑中

見舞油揚げ贈越旨、長蔵来る、富沢叔母暑見舞に来る、蒸菓子折菓(白玉粉)三小袋京蛤等持来□飯を勧む、木下鍬次郎家督濟御禮相済に付、使者を以銀壺枚、太刀一腰贈り越す、

山本(長)暑見

舞に来り霜糖一乍折、手製揚物持来、一杯を勧む

廿日寅 晴夕雷雨

宅調、□山(陽)暑見舞桃一籠持来、大霜(平)、□沢(貞)、佐藤(兼)来り面す

廿一日卯 晴乍雨意

羽山(金)、吉沢(太郎)、神津(十)来り面す、出 殿、松平隠岐守より転役賀使者来り、干鯛(五枚)樽代

三百疋持来せし旨

\*1:

( )内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。